

ICT ニュース 2026/3 月号

2026/3/17 発行 ICT/感染管理委員会

今年度も残りわずかとなり、4 月には新入職の方が就職されます。

私たち先輩がお手本となり、教育指導する立場となりますので宜しくお願いします。

昨年度末から警報レベルであったインフルエンザは飛沫感染ですが、院内で感染症が多いとされているのは接触感染です。なかでも特に問題となっているのは耐性菌ですが、感染対策上もっとも基本とされている手指衛生を怠らないようにしてください。



●耐性菌とは

あなたは風邪をひいたからと抗菌薬をもらいに病院に行っていないですか？そもそも風邪などウイルスによる感染症に抗菌薬は効きません。抗菌薬は細菌に対して効果があるものであり、不適切使用でその抗菌薬が将来効かなくなることがあります。今、世界中で抗菌薬の効かない耐性菌が増加しています。このまま耐性菌への対策を講じなかった場合、令和 32 年(2050 年)には世界で年間 1,000 万人が死亡し、癌による死亡者数を超えて死亡原因1位になるという推計が発表されています。

●薬剤耐性菌の特徴

薬が効かない→通常使われる抗菌薬が効かず、感染症の治療が難しくなる。

多剤耐性菌→複数の抗菌薬に耐性を持つ菌。代表例に MRSA(メチシリン耐性黄色ブドウ球菌)や VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)がある。

原因→抗菌薬の不適切な使用(風邪への使用、途中で辞める、回数を守らない)が主な原因です。

リスク→治療期間の長期化、重症化、死亡リスクの増加

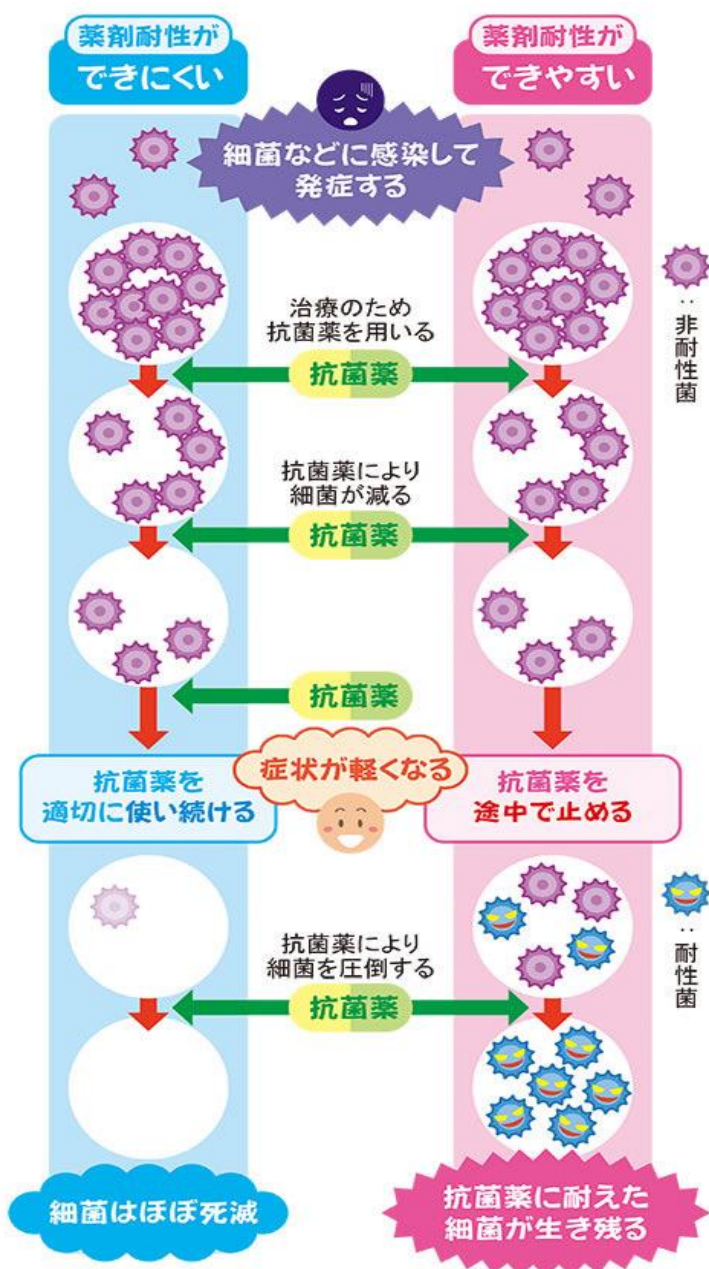
●あなたにできることは

抗菌薬は正しく飲む: 処方された抗菌薬は、用量・期間(最後まで飲み切る)を守る。

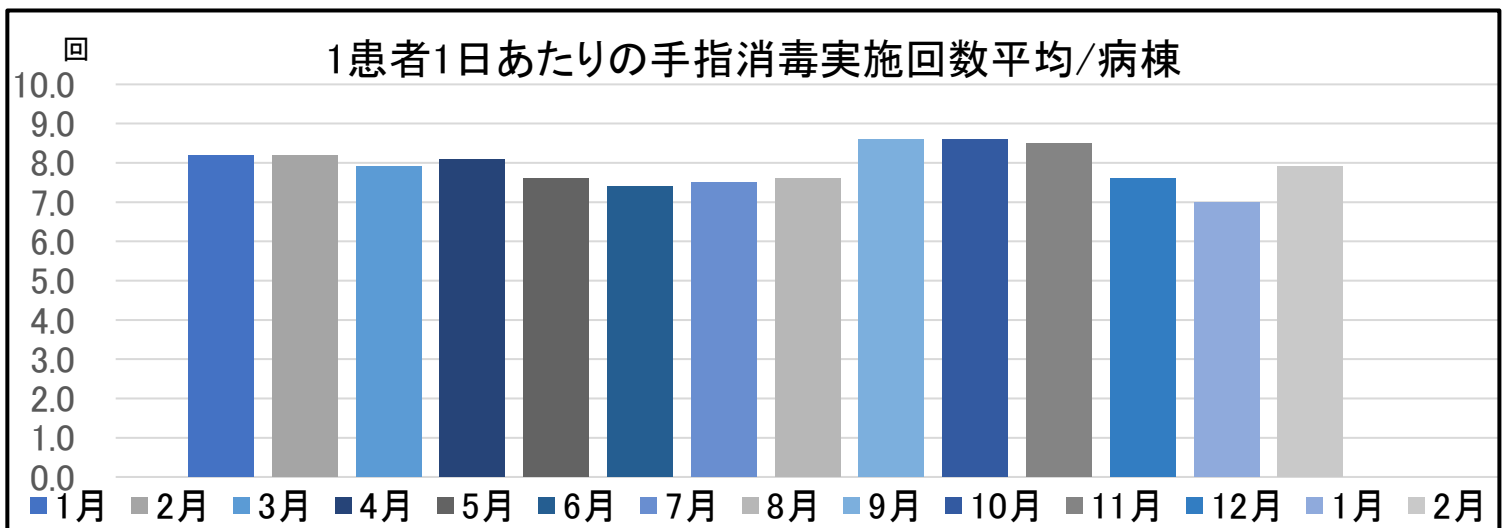
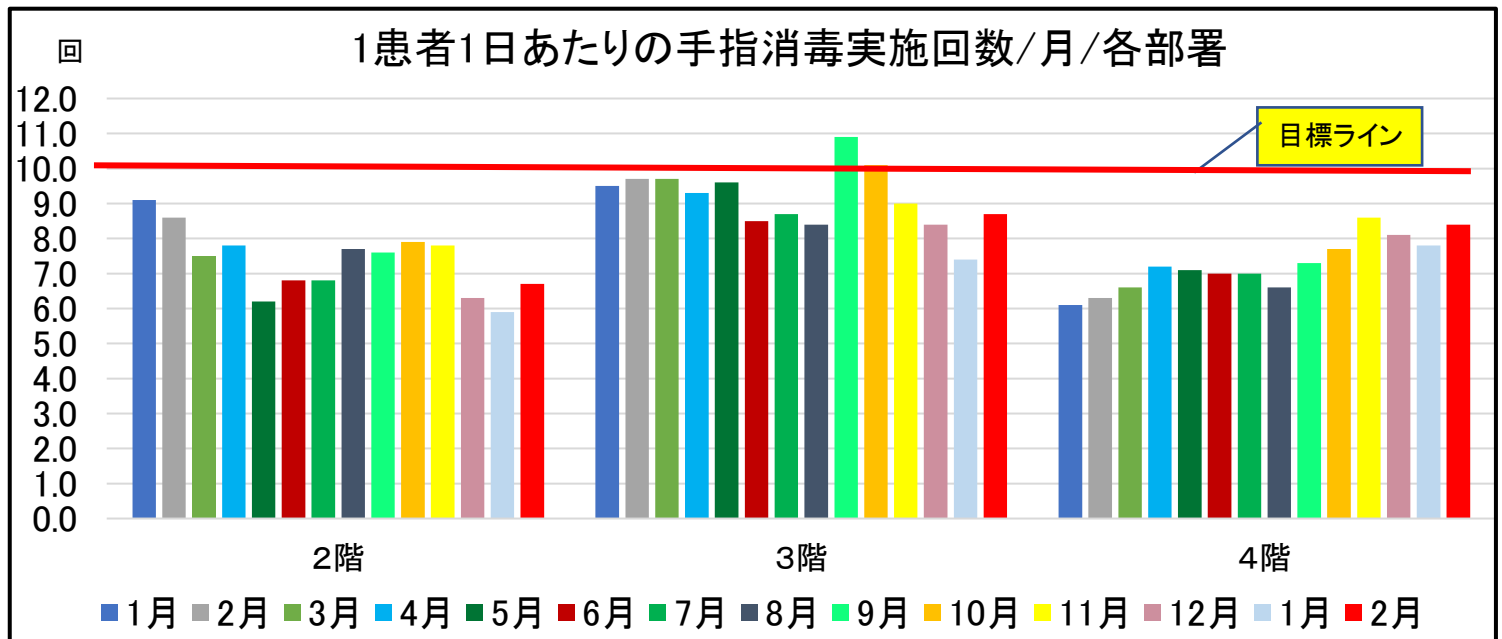
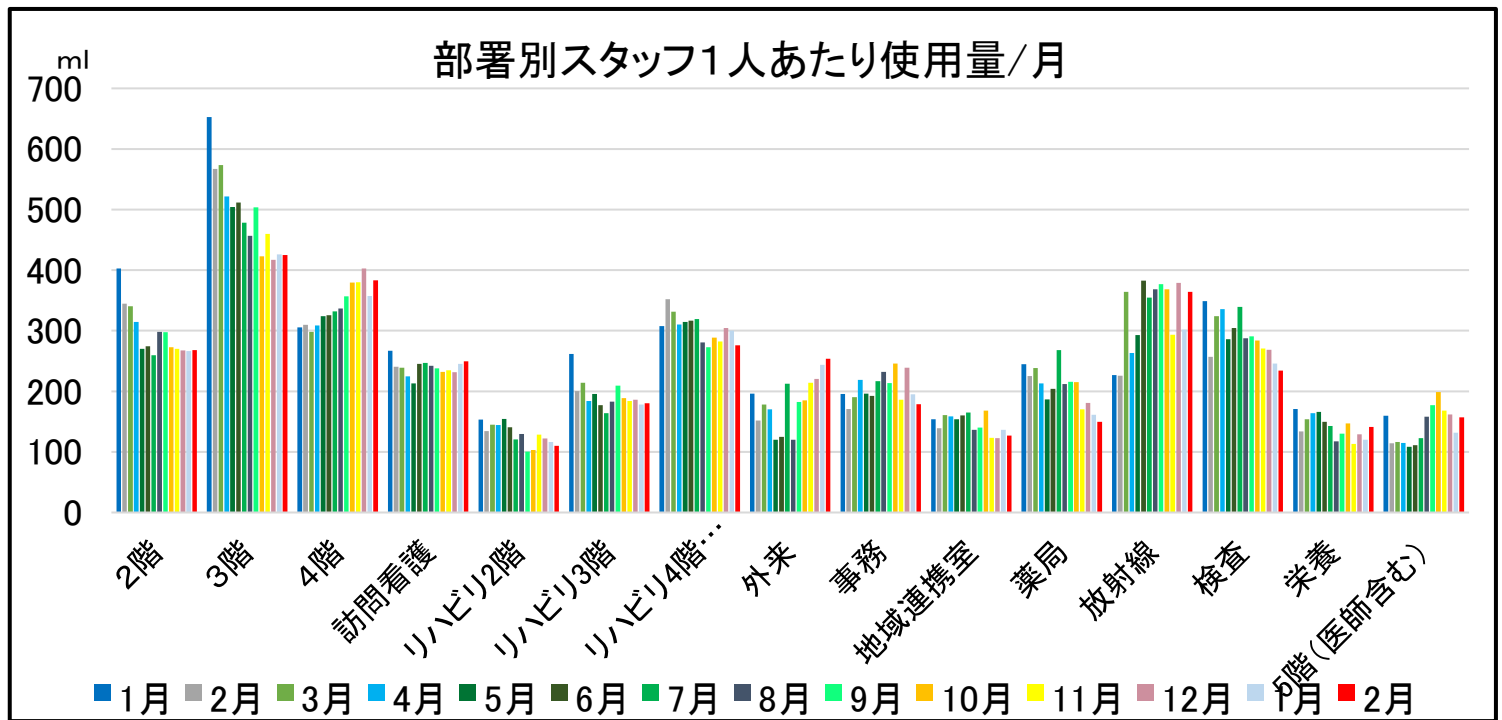
自己判断しない: 症状が改善しても、自己判断で服用を止めない。

手洗い・うがいの徹底: 基本的な感染予防で、菌自体を体内に入れない。

ウイルスに抗菌薬は無効ということを知る: 風邪のほとんどはウイルス性であり、抗菌薬は効かないため、内服しない。



★2025 年度アルコール手指消毒剤使用



※使用量に大差がありませんでしたが、実施回数は増加しました。

インフルエンザ警報レベルが解除されましたが、引き続き手指衛生励行につとめましょう。